

セラピューティックキャンプに参加した子どもに対する保護者の想い

坂田 一真 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 黒澤 毅

キーワード：セラピューティックキャンプ、病気の子ども、保護者の想い

1. 序論

難病情報センター²⁾によれば、「現在日本には副腎白質ジストロフィーなどの難病と闘っている子どもたちが、約68万人いる」と述べられている。

健常者を対象とした組織キャンプは多く実施されているが、難病や障害をもった子どもを対象にしたセラピューティックキャンプがとても少ないのが現状である。普段、障害や病気による制約のために不自由な雰囲気の中で窮屈な生活を送りがちな心身障害者にとって、セラピューティックキャンプ体験が及ぼす影響は大きいと考える。しかし、川端¹⁾は、「一般的に障害児は、行動に制約を受けるために日常生活の中での社会参加が乏しい。うえ、彼らが社会参加する場合にも親や保護者が同伴することが多い。したがって、キャンプの特徴である家族との一時的分離や日常生活との違いは、親の不安を引き起こし、子どもをキャンプに参加させるかどうかの決定要因になると考えられる」と述べている。

そこで、本研究は、病気の子どもをもつ保護者が子どもをセラピューティックキャンプに参加させる動機、期待・不安と同時に、保護者自身が抱く期待を明らかにし、セラピューティックキャンプ特有の効果について検討することを目的とする。

2. 研究方法

【調査対象】2011年8月19日～21日に開催されたセラピューティックキャンプに参加した28人の子どもの家族に対してアンケートを配布し、キャンプ終了後23名(92%)の保護者からアンケートを回収した。

【調査内容】田中³⁾が作成した子どもをキャンプへ参加させた動機、参加させる際の期待と不安に関するアンケート用紙を参考に筆者がセラピューティックキャンプに合うように独自に修正したものを用いた。

【調査方法】キャンプの初日に参加者の保護者に直接配布し、キャンプ最終日にアンケート回収、その後、課題に沿って、集計・分析を行った。

セラピューティックキャンプで行われた主なプログラムは、バーベキュー、熱気球、鮎の掴み取り、すいか割り、お楽しみ会、保護者の交流会であった。

健康状態、体力面が考慮され、プログラム参加は基本的に自由に行われた。

3. 結果と考察

病気の子どもをもつ保護者が子どもをセラピューティックキャンプに参加させる動機として、「普段の生活では体験できないことができるから」という意識が大きく、普段家族だけの外泊は厳しいが、医療チームやボランティアスタッフがいることから、安心安全に、普段の日常では体験できないことを体験できることが参加動機のきっかけであることが明らかになった。

セラピューティックキャンプに対する期待については、普段関わることが少ない自然や対人との関わりを通して、表情からしか感情を読み取るこ

とができない子どもが、「笑顔」になることを期待していることが推測できた。

保護者自身のセラピューティックキャンプに対する期待について、図1に示した。

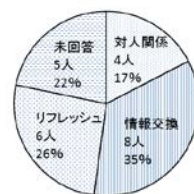


図1 保護者自身のセラピューティックキャンプに対する期待についての人数と割合

同じ病気の子どもをもつ保護者同士で、普段ではできない、学校や健常者の兄弟についての情報交換をしたり、ボランティアスタッフがいることにより、自分の時間ができると、日常を忘れてリフレッシュできることを期待していることが明らかになった。

また不安については、健常児を対象としたキャンプとは違い、「病気が悪化しないか」、「病気が急変した場合の対応は大丈夫か」など、セラピューティックキャンプならではの回答がみられたが、事前に友人や病院からの情報により、キャンプに対する不安傾向は低かった。

セラピューティックキャンプ終了後に実施した「今後このようなセラピューティックがあれば参加しますか」という問いに対して「参加します」と回答した保護者が83%(19人)おり、「わからない」と回答した17%(4人)の保護者は金銭面や、開催場所を理由に挙げていた。「参加しない」と回答した保護者はいなかった。病気の子どもと保護者にとって、セラピューティックキャンプに対する期待は大きく、今後の参加に繋がることが推測された。

4. まとめ

健常者の子どもと病気をもつ子どもでは、体力面やコミュニケーション能力に差はあるものの、「友達を作ってほしい」、「明るく元気に様々な体験をしてほしい」といったような、保護者の子どもに対する想いについては変わらないことが明らかになった。

また、保護者は色々な保護者と話したり、情報交換をしたり、ボランティアスタッフに子どもを預けることにより、自分の時間ができリフレッシュできることもセラピューティックキャンプへの参加動機に繋がることが明らかになった。

参考文献

1) 川端雅人 (1996) : 知的障害児キャンプにおける保護者の期待と不安. 筑波大学野外運動研究室修士論文

2) 難病情報センター

HP : <http://www.nanbyou.or.jp/> (2011年11月13日アクセス)

3) 田中翔子 (2007) : 保護者の自然体験活動への理解に関する研究. びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ学部 生涯スポーツ学科 野外スポーツコース 卒業研究紀要p7